

陳述書

2020年3月10日

氏名

齊木貴郎

1 私は、妻とともに2015年10月14日から、横須賀市の長井漆山漁港に近い現在の住所地に新築して住み始めました。

もともと東京に住んでおりましたが、妻が富士山が大好きで、これからは富士山が見える見晴らしのよいところに住みたいと思い、相模湾越しにきれいに富士山が見えるこの場所を見つけて引っ越してきました。

2 富士山がよく見えるような土地を探していたので、居住地は相模湾の波打ち際から100メートル程しか離れていない高台の縁近くに家を建てています。

下の土地との高低差は8メートル弱、傾斜はほぼ垂直に近く、家の駐車場側に位置する崖の部分には、コンクリートの擁壁が設置されていますが、家側の方には擁壁はなく、木や草が生い茂っている状態です。

2年前に、横須賀市の職員が、崖に擁壁を作る必要があるかどうかを調査しに来ました。その際は、崖が擁壁を作る基準の高さより低かったということで、特に何もせずに調査は終了しました。私はこのとき職員から聞いて、現在、私の家のある場所は、土砂災害警戒区域（急傾斜）に指定されていることを知りました。

家と崖の距離は2メートル程しかありませんので、もし崖が崩れたら、家も一緒に崩れる可能性が高いです。

(2020年2月26日原告代理人久保田明人撮影：高台上に存するのが自宅)



(2020年2月26日原告代理人久保田明人撮影：右側が自宅、左側が崖の淵)



(2020年2月26日原告代理人久保田明人撮影：自宅柵と崖の近接状況)



3 2017年10月に発生した台風の際は、ものすごい雨と風があり、この崖際の立地で大丈夫だろうかと不安になりました。

自宅から300メートルくらい離れたところにある長井荒井漁港では、ボートや漁業資材などがスロープに打ち上げられたり、荒井漁港近くの荒崎海岸なんやの浜手前のガードレールが高潮で壊されてしまいました。

(2017年10月23日齊木貴郎撮影：荒井漁港前)



(2017年10月23日齊木貴郎撮影：荒崎海岸なんやの浜前)



また、2019年に発生した台風15号の際には、荒井漁港近くの海側の崖が崩れ、土砂が道路を塞ぎました。私の家の崖と同じような地形の崖が近くで崩れたので、この崖も崩れるのではないかと本当に心配になりました。

4 台風15号のときは、家が吹き飛ぶのではないかとと思うくらい猛烈な風が吹きま

した。停電も15時間続きました。また、荒井漁港付近では、満潮と高潮が重なり、繋がれていた漁船が陸に打ち上がる被害が出ました。

私の家も、屋根の縁のステンレストタンの破風板の一部が暴風で外れて、家の裏の崖の下まで吹っ飛ばされる被害がありました。

また、屋根の尾根部分にある棟板金は空気を通すために通常の雨風で雨が侵入しない程度に隙間が空いているのですが、台風15号のときは、猛烈な風でそこから雨水が侵入し、2階の床は水浸しになり、1階の天井にも染み出してくるほど浸水する被害に遭いました。

さらに、崖と反対側にある畑から家の方に大量の雨水が流れ込み、家の前の道の砂利を流してしまうことも起こりました。

気候変動による自然災害の巨大化で、台風の際吹き荒れる風が猛烈になっています。昨年のハリケーンでバハマの家々が薙ぎ倒されたように自分の家が吹っ飛ばされるのが心配されます。

5 横須賀石炭火力発電所の新設計画が進んでいることは、2017年末に知りました。横須賀市長宛に建設を中止してくれるように意見を提出したところ、既設設備より大気汚染物質排出量及び温室効果ガス排出量が低減される計画、国が策定した2030年の電源構成（エネルギーミックス）の枠組み並びに2016年2月9日の経済産業大臣及び環境大臣間の合意を踏まえた民間事業者の経営判断なので、横須賀市が建設計画中止を申し入れることはないとの返事でした。神奈川県知事宛にも建設中止を要請しましたが、株式会社JERAに対して県として適切な環境配慮がなされるよう求めていくというだけの返事でした。

6 日本国民として、化石燃料の中でも最も多くのCO₂を排出する石炭を燃やす、石炭火力発電によって地球温暖化を加速させ、世界の人々を更なる大規模自然災害の危険に晒す事は堪え忍び難い事です。

横須賀市民としても、同様に逗子、鎌倉、藤沢、横浜、東京、千葉など近隣の市民のみなさまに石炭火力発電所から排出されるPM2.5、硫黄酸化物、窒素酸化物を始めとする有害な煤煙を撒き散らす事は同様に堪え忍び難い事です。

風向きは一定ではないので、私が住んでいる横須賀西地区にも、風向き次第で煤煙は飛散してきます。私は毎年の健康診断で肺に影があると言われ、呼吸器疾患があるので、大気が汚染されると健康被害が進み生命の危険に晒されます。

7 行政が住民の健康と生命を守ろうとしないのなら、私たち横須賀市民自身が国に対して横須賀石炭火力発電所の建設中止を求めようと思い原告として参加しました。

これ以上、石炭火力発電所を造って、多くの人に被害を及ぼすようなことをしてはなりません。将来世代のためにも、なんとしても、石炭火力発電所の設置は止めたいと思います。

以上